



主要な農作物の生育情報

平成22年度 第7号
(平成22年10月 8日)
福島県農林水産部研究技術室



【水 稲】

農業総合センターの調査では、高温の影響から登熟日数が平年より2～9日早まり、成熟期が平年より6～15日早まりました。(表1)

表1：水稻主要品種の成熟期と登熟日数(農業総合センター)

場 所	品 種	田植日 (月日)	成熟期			登熟日数		
			本年 (月日)	平年 (月日)	平年差 (日)	本年 (日)	平年 (日)	平年差 (日)
本 部	ひとめぼれ	5.14	9.05	9.17	-12	35	42	-7
	コシヒカリ	5.14	9.15	9.30	-15	38	47	-9
会津地域 研究所	ひとめぼれ	5.20	9.09	9.15	-6	39	41	-2
	コシヒカリ	5.20	9.15	9.24	-9	39	45	-6
浜地域 研究所	ひとめぼれ	5.10	9.07	9.18	-11	38	43	-5
	コシヒカリ	5.10	9.18	10.03	-15	41	50	-9

水稻の刈取始期(5%)は、県全体で5日早まりましたが、9月中旬以後の降雨の影響から、9月30日現在の刈取状況は約26%となっています。

農業総合センター作況試験(水稻、大豆)の調査結果はこちらを参考にしてください。

http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/sakkyou_index.htm

【野 菜】

1 夏秋きゅうり

県内各地の露地栽培では、8月の高温・乾燥や成り疲れによる草勢低下、9月後半の急激な低温や病害の発生により、平年より早く栽培を終了しているほ場が多くなっております。

ハウス抑制栽培は、8月中旬から出荷が始まり生育は順調です。

病害虫は褐斑病、ハモグリバエの発生が多くなっています。

2 夏秋トマト

県南地方では現在13段果房収穫中、南会津地方では現在9段果房収穫中で8月下旬から9月上旬に摘芯を行っています。いずれも生育は平年並みですが、気温の低下による着色の遅れや8月の高温による花落ちの影響で出荷量は減少しています。

病害虫では、葉かび病や灰色かび病、ハモグリバエの発生が多くなっています。

3 サヤインゲン

田村地方では、現在6月下旬～8月上旬播種のものが栽培終了間近となっています。

双葉地方の6～7月播種のもは、9月下旬でほぼ栽培を終了しています。

いずれの地方とも、8月の高温・乾燥やその後の気温低下、降雨の影響で平年より早く栽培を終了しているほ場が多くなっております。

4 夏秋ピーマン

安達地方や田村地方の露地栽培は、収穫後半となっています。いずれの地方とも気温の低下で果実肥大が遅くなり、芯止まりが見られます。収穫は平年どおり、10月中下旬まで行われる予定です。害虫では、アザミウマ類やタバコガの発生が多くなっています。

5 夏秋ナス

安達地方や田村地方、須賀川地方の露地栽培は、収穫後半となっています。気温の低下で果実肥大が遅くなっています。収穫は平年どおり、10月中下旬まで行われる予定です。病虫害では、うどんこ病、オオタバコガの発生がみられます。

6 秋冬どりブロッコリー

県南地方や相双地方では、高温・乾燥により定植作業の遅れや定植後の苗の生育が遅れていましたが、9月の降雨により生育は回復し順調な生育となっています。害虫では、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウの発生が多くなっています。

【果 樹】

1 モモ

農業総合センター果樹研究所（以下、果樹研究所という）における「川中島白桃」の収穫始めは8月27日で平年より2日遅く、収穫盛りは9月2日で平年より5日遅れました。果実の大きさは343gと平年より大きく、糖度は14.0と平年より高い状況でした。

県北地方では、8月20日から「川中島白桃」の選果が始まりました。高温・乾燥の影響により、果実の糖度は高い傾向でしたが、収穫期間が長引き、着色が遅れる傾向でした。また、果実肥大は平年並み～やや劣る状況でした。

せん孔細菌病の発生が平年より多い状況となっています。

2 ナシ

果樹研究所における「幸水」の収穫始めは8月30日、収穫盛りは9月5日で平年より3日遅れました。果実の大きさは383gと平年よりやや大きく、糖度は12.9と平年よりやや高い状況でした。

「豊水」の収穫始めは9月21日で平年より6日遅く、収穫盛りは9月25日で平年より4日遅れました。果実の大きさは342gと平年より小さく、糖度は13.7と平年より高い状況でした。

県内産地では、8月25日から「幸水」の選果が始まりました。高温・乾燥の影響により、果実の糖度は高い傾向ですが、収穫期間が長引き、果実肥大は地域差があるものやや劣る状況でした。また、「豊水」の選果は9月14日から始まりました。

3 リンゴ

果樹研究所における「つがる」の収穫始めは8月31日で平年より2日遅く、収穫盛りは9月4日で平年並みに推移しました。果実の大きさは256gと平年より小さく、糖度は13.0とやや高い状況でした。

県内産地では8月25日から「つがる」の選果が始まりましたが、高温・乾燥の影響により、果実の着色が遅れ、果実肥大は地域差があるものやや劣る状況でした。

果樹研究所における「ふじ」の果実肥大は、暦日で比較すると平年比97～100%と平年並み～やや小さい状況ですが、果実の生育日数による比較ではほぼ平年並みとなっています。

【花 き】

1 キク類

9月咲き品種は、高温による開花の遅延が懸念されましたが、ほぼ平年並みに彼岸需要期の出荷となりました。

また10月咲き品種では、平年並みに9月下旬から出荷が始まっており、品質も良好です。病害虫は、オオタバコガやハスモンヨトウが前年より多く発生しています。

2 トルコギキョウ

各地方ともに抑制栽培の出荷が行われていますが、高温の影響で早期着蕾がみられ、草丈はやや短めの傾向です。

また会津地方では、年内定植の加温促成栽培向けの育苗が始まっています。

3 シュッコンカスミソウ

昭和村や南会津町では、早生品種の作付け増加や高温の影響により開花盛期が前進しております。そのため、9月中旬からは出荷量が徐々に減少し、現在、出荷終盤を迎えています。

4 シンテッポウユリ

須賀川地方のシンテッポウユリは、1年生株（品種：「うつみね」）の晩生種が出荷されており、10月後半まで行われる見込みです。

6 ストック

8～9月上旬に高温が続いた影響により、花芽分化の遅れが懸念されましたが、概ね順調な生育となっています。

病害の発生については、一部ほ場でコナガの発生が見られています。

7 シクラメン

各地方ともに順調に生育しています。

田村地方では、9月中旬からミニシクラメンの出荷が開始しました。

【飼料作物】

1 牧草

作柄判定ほや畜産研究所では、平坦部で9月中旬までに、山間部では9月下旬までに三番草の収穫作業が行われました。

地域によっては少雨の影響で牧草の草丈がやや低く、雑草の発生が見られました。

2 飼料用とうもろこし

作柄判定ほや畜産研究所では、早生種で8月下旬から、中晩生種では9月上旬から下旬にかけて収穫作業が行われました。

9月上旬まで比較的高温で推移し例年より登熟が早まったことや少雨の影響もあり、収量は平年並みからやや少ない状況となりました。

また、登熟の早まりや他の作業との競合により、黄熟期を過ぎてから収穫された地域も見られません。

3 稲WCS

8月中旬より収穫が開始され、ほとんどの地域で9月末までに収穫作業が行われました。

天候にも恵まれ、例年より収量が多く、高品質な稲WCSが生産されています。

【桑】

農業総合センターによる9月30日現在の伸長状況調査では、「きぬゆたか」の春切りで前年比67%、夏切りで前年比81%となっています。

病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ
<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>）等を活用し、適切に対応してください。

発行：福島県農林水産部研究技術室 TEL(024)521-7336

<http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyukaihatu/gijyutsufukyuu/seiikugijyutsujyohou.html>